

化学工学会 SCE・Net ○(正) 長安敏夫\*・(SCE・Net) 山岡龍介・(SCE・Net) 渡辺 紘一

### 1. SCE・Net (シニアケミカルエンジニアズ・ネットワーク)

SCE・Net は化学工学会の産学官連携センターの1組織である。ベテラン技術者、科学者が集まって組織化し、各研究会活動などで相互研鑽しながら外部への情報発信し、教育活動も行いながら、業務受託もする団体である。

### 2. 安全研究会の紹介

SCE・Net 内の諸研究会のひとつであり、2001年に発足したものの、一度中断して2003年に再発足して現在に至っている。

安全研究会の狙いは、色々な産業の現場における安全知識普及であり、現場で働く人たち、或いは働くことを目指す人たち、保安管理に携わる人たちが安全知識、安全感覚を身に付けて職場の安全文化を高めることに役立つ情報を提供することである。

これまでの具体的な活動実績は下記である。

- ① 本講演説明のPSB和訳と安全談話室の発信
- ② AIChEのCCPSが2007年12月に発表したメトリックス(Process Safety Leading and Lagging Metrics)の和訳(済)とその普及活動
- ③ 安全警句集の作成と普及
- ④ SCE・Netの教育講座への参加(2005年～2007年実施)

### 3. PSBの紹介

#### 3-1) PSBとは

Process Safety Beacon (プロセス安全指標)の略でAIChE(米国化学工学会)の安全関係組織であるCCPS(Center for Chemical Process Safety)が毎月発行する安全メッセージ。写真入りの事故例紹介と共に幅広いプロセス安全の問題を取り上げ、関連する基本知識やプロセス関係者として実施すべきことを解説している。

#### 3-2) PSB発行の目的

世界中での産業界で従事している人たちの安全標識となるようメッセージを送り、現場での事故防止の教材として活用してもらうこと。原文は英文で発信され、世界の約30言語に翻訳されている。AIChEに登録すれば原文と各国翻訳が閲覧可能である。

### 4. PSB和訳活動と談話室

#### 4-1) 安全研究会の和訳開始の経緯とその意義

CCPSより、当研究会員でありAIChE会員でもある小谷氏にPSB和訳の依頼があり、当研究会が引き受けることとなった。PSBの和訳により、読者が効率的に情報を得られ、理解し

やすくなり、現場の安全確保、事故防止に役立てられる。

2006年4月号より開始し、現在継続中である(PSB原文は2001年11月より発行)

#### 4-2) 安全談話室の開設

PSBの記事内容について、掘り下げて議論したり、メンバー自身の経験や知見を披露することにより、読者の理解を助け、情報提供に資することを目的に開設した。

#### 4-3) 和訳及び安全談話室の実施要領と苦労話

和訳の実施要領

- ① 毎月の初めに原文が送られて来る
- ② 当月の担当者2名がメール相談で和訳原案作成し、全員にメール配布
- ③ 各メンバーは担当者に修正意見など提出→担当者は調整
- ④ 研究会の会合で、全員議論で修正
- ⑤ AIChEに和訳のPDF版を送付

安全談話室の実施要領

- ① 研究会で和訳のグループディスカッションに続いて安全談話室の議論
  - ② 和訳担当者が纏め、後日に談話室原案を全員にメール提示
  - ③ グループの全員がメールで追加、修正
  - ④ 以上を担当が纏め、翌月の研究会で最終決定
- 和訳において苦労する点

- ・ 和訳しにくい単語は日本語にするか、カタカナ英語にするかの判断
- ・ 同じ英単語でも記事内容や、職場により訳語が違うケースがかなりある

以上の点をグループで十分に討議し、またその上で必要に応じてCCPSに確認する。これらの努力により、グループとしての強みを十分に発揮していると考えられる。

#### 4-4) 公開プロセスと期待される活用分野

和訳と安全談話室をパッケージでSCE・Netホームページに公開し、また月刊雑誌「化学装置」(株工業通信社)でも同様にパッケージで連載されている。

今後期待される活用分野として、化学産業の多くの事業所、研究所等の保安防災活動の教材とされることを考えている。実際に防災教育の教材としてPSBを使用している大手化学企業もあり、更に他企業にも広めていきたい。

\* rx112520@nifty.com